



～あふれ出る湧き水と瑠璃色の水辺の町～

針江・霜降



はりっしも
Harisshimo vol.12 2020 (令和2年) 8

針江・霜降の水辺景観まちづくり協議会

小さな町に
自然と湧き水と川が
つながる

Message

国の重要文化的景観「針江・霜降の水辺景観」が選定されて10周年を迎えました。

■10周年記念号は、調査構想段階から大変お世話になっている金田章裕先生にご寄稿いただきました。

水とともにある生活を語る 針江・霜降の水辺景観

金田章裕

京都府立 京都学・歴史館館長



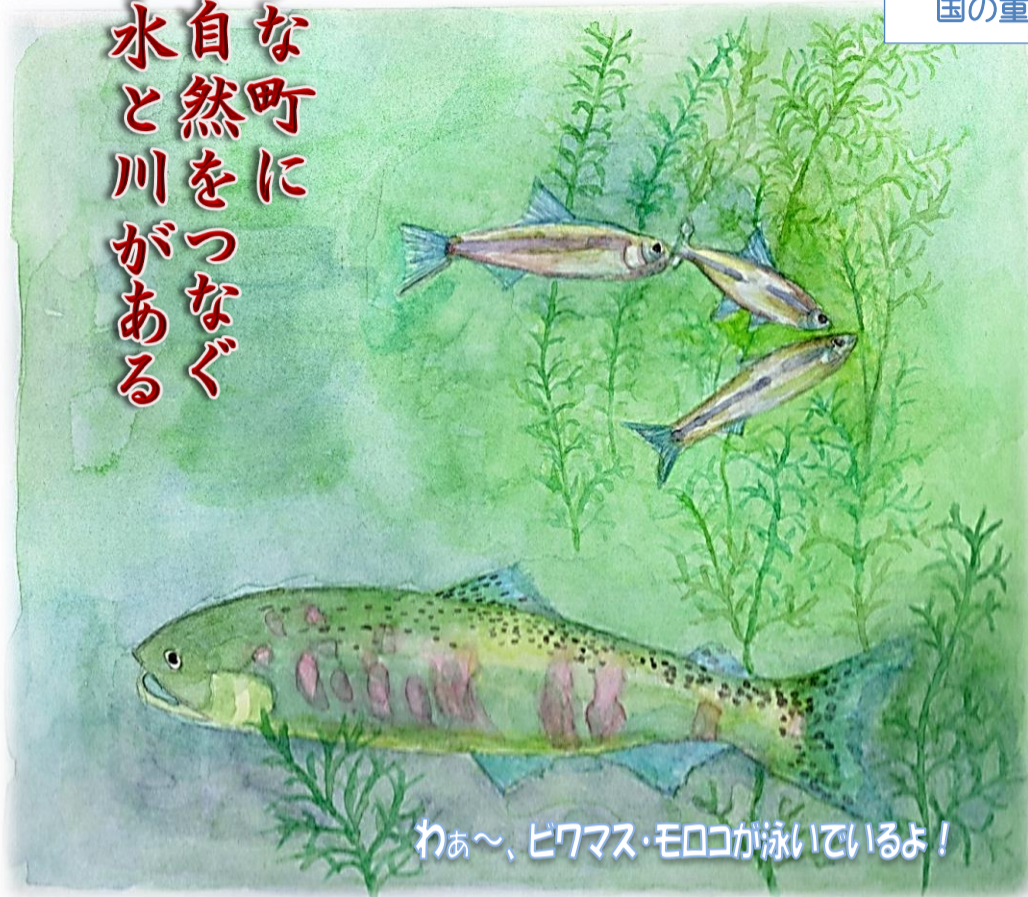
平成22年、「高島市針江・霜降の水辺景観」が重要文化的景観に選定された。霜降から針江にかけての集落内には、琵琶湖へ注ぐ大川が流れ、毎年数回は住民総出で川掃除がおこなわれ清流が保たれている。水中には緑の梅花藻が揺れ、季節が来れば白い花をつける。

大川は安曇川の旧河道であったので、地表の水流も豊かであるが、地下水の水量も多く、いずれもカバタ(川端)として食器・食材を洗ったり、お茶や西瓜を冷やしたりする。もちろんビールも冷えるし、鯉や鮎などの生簀ともなる。

カバタは、家の敷地が面する大川やその分流に設けられ、屋根のある外カバタもあれば、台所付近に流れを引き込んだ内カバタもある。台所に半地下の井戸を掘った内カバタもあって、かつて初めて霜降の饗庭家のものを見学したときには大変驚いた。



これらの水とともにある生活を語るのが水辺の文化的景観である。当地域は重要文化的景観として選定される以前から、テレビ報道などでよく知られていた。とりわけ、この地域独自の住民による環境保全活動やまちづくり活動は、水辺景観の維持と保存、さらには活用につながるものとして、重要文化的景観の一つのモデルとなっている。引き続きの活動と美しい景観の維持を願いたい。



わあ～、ヒワマス・モロコが泳いでいるよ!

<プロフィール>

■富山県生まれ。京都大学名誉教授(元 京都大学理事・副学長)、京都府立大学法人理事長。京都府立京都学・歴史館館長。元 人間文化研究機構機構長。専門は人文地理学。
高島市では、清水山城館跡現況調査委員会、重要文化的景観保存活用委員会を始め、多くの調査委員会、計画策定委員会委員を歴任。現在、高島市重要文化的景観整備活用委員会委員長、高島市文化財保存活用地域計画策定委員会委員長、高島市景観審議会会長

10年目の水の音

■重要文化的景観に選定されて10年を数え、当協議会では、今年3月に金田章裕先生を中心に策定された整備活用計画を基に活動を進めています。

「針江・霜降の文化的景観」は、豊かで清冽な湧き水・生水とともにある日常の水の生活文化です。これからもその水のありがたさを暮らしのなかを感じる心を守り伝えていきたいと思えます。また、高齢化をふまえ、豪雨対策や景観保全にも両区が連携して取り組んでいかねばなりません。さらなるご理解ご協力をお願いいたします。

コロナ禍で人影が減り、カバタから流れ出る水の音だけがいつまでも聞こえる、こんなに静かな田舎まちだったのだと、ひと昔前を思い起こしてしまう日々。令和2年、夏。

針江・霜降の水辺景観まちづくり協議会
会長 足立 亨

10年のあゆみ

①

【平成22年度】

- 選定記念
保存調査報告
講演会を開催
講師：金田 章裕
(人間文化研究機構 機構長)
佐野 静代
(同志社大学 准教授)
※職名はいずれも当時



【平成23年度】

- 「針江・霜降の水辺景観まちづくり協議会」発足



【平成24年度】

- 住民研修会を開催
佐野 静代先生によるお話

【平成25年度】

- ★生水の郷委員会が「エコツーリズム大賞」受賞
- 構成要素のカバタ(3件)
伝統的建造物(住宅、酒蔵)
改修事業実施
(25~29年度、市/文化庁補助事業)

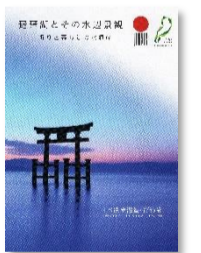


【平成26年度】

- 地域内案内表示看板類の設置

【平成27年度】

- ★高島市重要文化的景観
整備活用委員会設置
- 日本遺産
「琵琶湖とその水辺景観
—祈りと暮らしの水遺産—
の構成要素となる
- 市の地方創生総合戦略事業受託開始



■紹介パネル



■紹介パネル



■ホームページ
(針江生水の郷委員会 HP 内)